

◎「中浜万次郎」教材開発のための取材に協力！

先日9月21日(水)15時～17時、東京三鷹市に所在する(株)探究学舎の青山英敏氏、和田絃昌氏、ものがたり法人 FireWorks 映画監督の林弘樹氏が、中浜万次郎について教材化を計画しており、その取材のため、土佐清水市を取材訪問し、当教育委員会生涯学習課市史編さん室に来室しました。

万次郎の少年時代とそれを取り巻く中浜浦の様子についてしばし懇談。その後、中浜地区に移動し、現地巡見で中浜の地理的概要を説明しました。中浜地区谷前に所在する万次郎復元生家の見学も行い、同地区の西川区長に説明を受けた。

探究学舎では、これからの時代に求められるのは「興味開発」というアプローチであると説き、「驚きと感動の種をまく」というコンセプトのもと、宇宙・生命・元素・医療・数学・経済・歴史・芸術・IT等、様々なテーマで授業を行っている。今回、中浜万次郎の教材化を図る目的で万次郎の生誕地である本市を取材するため、訪問した。

探究学者・宝槻泰伸代表は、将来どんな種を選ぶかは子ども自身であり、親や教員はできるだけ多くの種を子どもたちにまくことが重要であると説く。「これまで“偏差値が高い”とか“収入が高い”とか、ピラミッドの頂点に立つこと、すなわち大樹に育つことが成功の概念だった。一つの物差しで子どもを測るのではなく、子ども自身の物差し作り・自分色に輝いていくこと。そういうイメージを持ち、大木を目指すのではなく、たとえ小さな木であっても満開の花が咲く木をめざすことが重要である」と力説している。

「郷土の先人・中浜万次郎」…その生き方が今、全国的に注目を浴びている。死とすぐ隣合わせの逆境にあっても粘り強く、不屈の精神で生き抜いた万次郎。土佐清水市に生きる私たちは、故郷の先人・中浜万次郎について市外の方々にしっかりと語れることが重要だと思う。万次郎…実に奥深し。



↑万次郎復元生家で西川区長から話を聴く。



↑万次郎の故郷・中浜地区区長場前。

◎ 『新市史(資料編)』 中世石造物調査を実施！

9月24日(土)～26日(月)

調査初日は、24日午前9時から加久見地区小字矢熊の地で「センケ」と呼ばれている場所で実施した。ここは加久見氏家臣団の供養塔とみられる石仏や一石五輪群が集積されている。「センケ」は『長宗我部地検帳』によると「泉慶院」という寺院跡であり、境内裏手には大阪方面から取り寄せたとみられる和泉砂岩製の一石五輪や石仏などが多く存在する。海邊氏をリーダーとする調査団はここを集中的に調査する。

【調査員】

滋賀県立大学・佐藤教授

芦屋市教育委員会生涯学習課学芸員・森山由香里◎

香川県広域行政組合・松田副主幹

大阪府泉南市役所・三好義三◎

兵庫県立大学・先山客員教授

堺市博物館学芸課推進係(係長)・海邊博史◎

愛媛県伊方町文化財保護審議会・黒川審議委員長

※◎は市史調査協力員兼市史執筆協力員

【調査方法】

石仏や一石五輪を形状・材質・帯磁率等により分類する。また、主な一石五輪を作図し、拓本を取る。また、「帯磁率測定」「材質確認」を行い、分類の精度を高め、産出地を断定する。これらの中世石造物調査は、今年11月に2回目の調査を実施し、その後に『新市史(資料編)』に調査結果を掲載する予定である。調査リーダーは、堺市博物館学芸課・海邊推進係長(博士)。これだけのメンバーが『新市史(資料編)』調査に加わっていただいている。すごいことだと思う。皆さん、石造物では超一流の研究者の方々であり、遠路調査に参加いただいたことに深く感謝申し上げたい。

